

経営比較分析表（平成29年度決算）

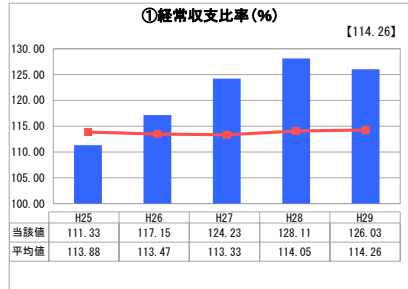
岡山県 備南水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	49.98	99.93	0	

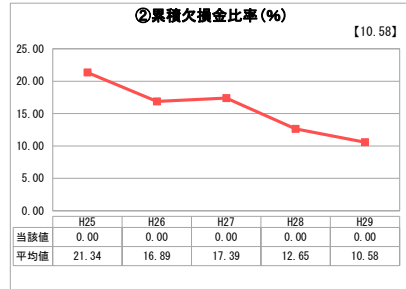
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
494,904	363.25	1,362.43

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成29年度全国平均

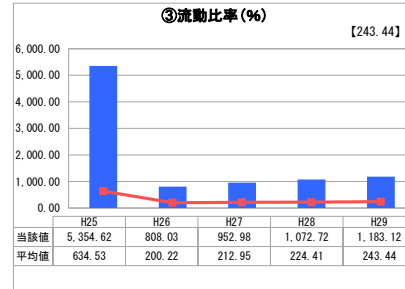
1. 経営の健全性・効率性



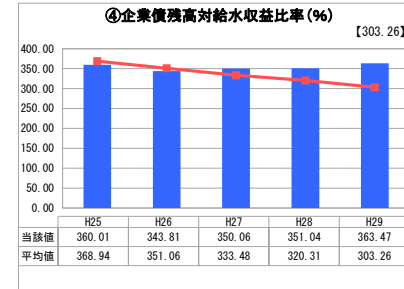
「経常損益」



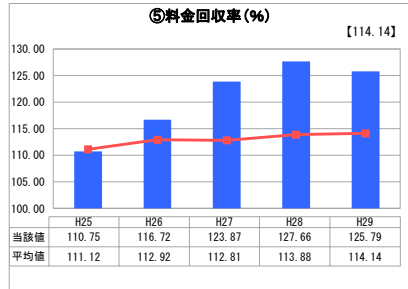
「累積欠損」



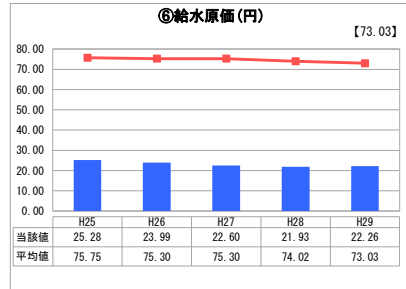
「支払能力」



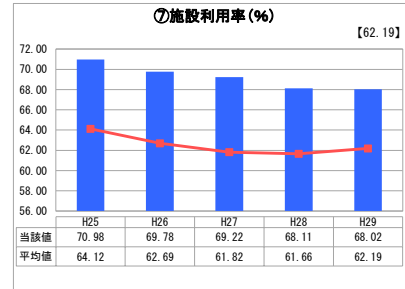
「債務残高」



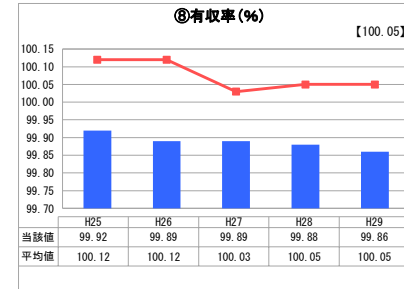
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

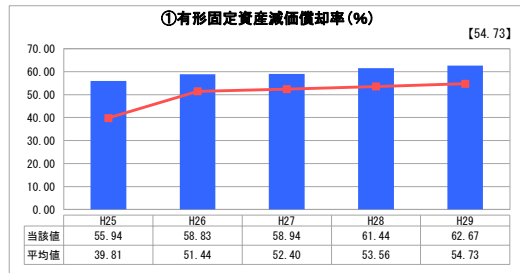


「施設の効率性」

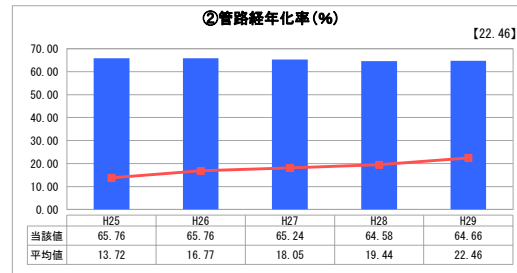


「供給した配水量の効率性」

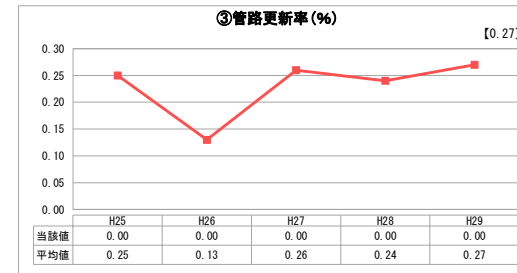
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、料金回収率とも100%以上は保っているが、今後は維持管理費等の増加が見込まれるため、経営改善が必要である。給水原価を安価に抑えているが、全国有数の低価格な供給単価のため、削減幅も小さい。水需要の減少、老朽化施設等の増加もあり、今後は料金改定も含め、検討していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

建築から何年も経っており、有形固定資産減価償却率は高い数値となっている。管路の経年化率は高く、管路更新率は低い数値であるが、年次計画に基づき、施設、管路に優先順位を付けて年次的に更新を行っている。

全体総括

更新計画に基づいた施設の更新、耐震化を実施しており、今後は企業債残高は増加に転じ、内部留保資金も減少する見込みである。必要な資金確保のためにも、より一層の経費節減、経営の効率化に努めるとともに料金改定も視野に入れる必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。